



日本水工設計(株) 東北支社
山元 裕美

東北地方の皆様 よろしくお願いたします

◆はじめまして

東北地方の皆様、はじめまして。日本水工設計(株)・東北支社の山元裕美と申します。今年の6月より、東北支社へ赴任いたしました。入社以来、東京支社にて下水道計画一筋、生まれ育ちも東京・神奈川を行ったり来たり・・・という状況で、初めての単身赴任でございます。生活環境・職場環境も変わり、やっていけるかな？と緊張して転勤してまいりましたが、東北支社のメンバーに温かく迎え入れてもらい、とても自然体で仕事をさせて頂いています。手前味噌ではありますが、弊社の東北支社のメンバーは、総務・営業・技術とも、本当に心優しく、でも芯は強いといった最高のメンバーです。こんなに心の美しい大人がこの世にいたのか？と、大袈裟ではなく、本当にそのように日々感じています。きっと、東北の方々の気質なのだろうと思い、そういった方々に囲まれて仕事ができることを、心より感謝しているところです。

◆水コン協（本部・関東支部）での活動

さて、水コン協の活動では、東京支社に在籍していた際に、技術委員会および下水道委員会の中の計画小委員会の2つの委員を3年ほど務めさせて頂きました。協会会社会の錚々たるメンバーのご指導の基、特に技術委員会では上下水道座談会やパネルディスカッション、技術研究報告会の企画・運営など、貴重な経験をさせて頂きました。私が初めて技術委員をさせて頂いた年の座談会では、「今後の下水道事業におけるコンサルタントの立ち位置」をテーマに、国土交通省・石井専門官様をはじめ、東北地方からは岩手県紫波町の工藤建設部長様、日本上下水道設計(株)東北支社の新山様、東京設計(株)の田口様にご出席頂き、国・県・市町村・コンサルタント、総勢12名で自治体が向かうべき方向や、そのためにコンサルが何を行うべきなのかを熱く語り合ったことを思い出します。

これ以降も、技術委員会では常に“上下水道コンサルが如何に社会に貢献できるか”をテーマに、各社、知恵を出し合いながら、新たな技術開発やマニュアル作成などにも取り組んでまいりました。その1つの成果として、12社のワーキンググループ(以下、雨水WG

という)で作成した「下水道雨水管理計画策定マニュアル 平成24年11月」が挙げられます。雨水WGの中では、計画以上の豪雨の頻発化により浸水被害が多発している中、人口減少・財政難により、雨水排水施設整備のみでは対応ができない。こういった状況の中で、浸水被害を最小化するために「人(受け手)主体の目標設定」「選択と集中」「ソフト・自助の促進による被害の最小化」をキーワードとした、より具体的なマニュアルが必要であろうと考え、「下水道雨水基本構想」の策定提案をメインとした、自治体・コンサルがハンドブックとして使用できるマニュアル作成を行いました。

このように、水コン協という活動組織の元で他社間でありながら、高度な知識・知恵を出し合い、共に技術力・社会貢献度を高めあえる活動に参加できたことは、技術者として大変貴重な経験となりました。

◆水コン協(東北支部)での活動に参加して

このように水コン協好きな私は、以前、下水道展で頂いた水コン協ポロシャツもしっかり仙台に持ってまいりました。いつ、東北支部の活動に参加できるかな?と楽しみにしていたところ、9月27日に「水コン協東北支部 技術講習会」に参加する機会を得ました。午後の部に参加させて頂いたのですが、アセットマネジメント(以下AMという)をテーマに、仙台市建設局下水道経営部の水谷経営戦略室長様、水コン協技術研修委員長・オリジナル設計の池田様、メタウォーターPPP事業部の塚原様、そして弊社・日本水工設計の藤木九州支社長の4名、AM技術に関する我が国の第一人者の皆様の講演を拝聴する機会を得ました。また、聴講者の中には自治体様からの参加者も多かったようで、仙台市の取り組み、国際規格の動向、自治体は何をなすべきか、コンサルはどう関与できるのか、など、4名のパネラーと会場が一体となって考える、大変貴重な時間であったと感じました。特に仙台市の水谷様が、これからAMに取り組もうと考えている自治体があれば、いつでも講習会に行くし、今回の講習会をスタートとして、東北地方全体でのAM取り組みについて継続的に勉強会・研修会をしましょう!と呼びかけて下さったこと、東北地方での絆を感じ、大変感動いたしました。弊社の東北支社メンバーが素晴らしい人達であるのと同様、東北地方の方々も真の優しさと強さを持ち、他者を思いやりながら生きているのだらうと、深く感銘いたしました。

◆コンサルタント技術者として、なにを見つめていくか

先のAM講習会でも色々と学びましたが、アセットとはヒト・金・物(施設)・情報などのことであり、AMとはアセットから価値を実現化する組織の調整された活動と定義されているとのこと。なかなか、言葉にすると難しいなあというのが本音ですが、我々コンサルタント技術者は多様化・高度化する技術を習得し、自治体様へ提供していかなければならないと思います。しかし、日々、難しいことを考え、仕事に追われていると、本当に大切なものが見えなくなってくるかもしれない…。私自身の考えですが、高度な技術を駆使すれ

ば優れた設計できる、けれどもそれは設計止まりかな？と。そこに心を込めて、はじめて優れたコンサルティングができるものだろうと思っています。“心を込める”って、なんと曖昧な・・・と感じられるかもしれませんが、具体的には、発注者様だけを見るのではなく、その発注者様が支えるべき市民・まち・環境のいま、そして未来をみつめ、より多くの人々と、これから生まれてくるであろう子供たちの幸せのために私の仕事がある、と感じることにより、アセットマネジメントの仕組みも体に染みつくであろうし、人々を幸せにするための技術習得・努力も自然にできるのであると思っています。9月27日のAM講習会はこのことを再認識する大変良い機会となりました。

◆市民・まち・環境のいま、そして未来を支えるために

先日、美容室で何気なく読んでいた雑誌に、風水について書かれていました。風水で運気を上げるには、吉方位に赴き、①パワースポットへ行く、②その土地のものにふれる（食す）、③その土地の水にふれる（温泉につかる）という、3つのことを行うと運気が上がるそうです。これは仕事にかこつけて、色々な土地を巡る良い理由ができたぞ！と思い、先日は、仕事で伺った津軽地方で①～③を実行してきました。吉方位の見方は難しく、よくわからなかったのですが、縁あってお仕事をすることになったまちは吉方位に間違いのない！と自己判断し、津軽の象徴である①岩木神社でお参りする、②岩木山に登って嶽きみを食す（すごく甘くておいしかったです！）、③久々の山登りで悲鳴を上げている筋肉を嶽温泉・百沢温泉で癒す・・・と、この3つを実行してきました。もちろん、ちゃんと設計に係わる現地踏査もしてきましたが、ひと・まちの日常を肌で感じ、まちを好きになることで、より良い設計とコンサルティングのためのパワーを頂けるとと思っています。これからも東北の色々な土地・人に出会い、パワーを頂きながら、より良いコンサルティングを行っていきたいと思いますので、東北地方の皆様、末永くよろしく願い申し上げます。